現場･市民 目線で市政チェック。
「いいね！」あふれる大和に。

令和２年５月号
vol.022
３月・５月議会の報告

おだ ひろし
大和市議会議員
元産経新聞記者

小田博士の市政かわら版

自民党

３月・５月議会　一般質問が初の中止　専決処分７件…
新型コロナで異例の対応

新型コロナウイルス感染症が日本を揺るがせています。

大和市議会は、３月定例会において委員会審議の時間を短縮。一般質問を初めて中止としました。当時は大規模イベント自粛や小中学校の一斉休校が決まり、市はとっさの対応に追われました。市側に万全の態勢をとってもらいたいというのが理由でした。

その代わりに、コロナ問題に関する意見・要望を会派ごとにまとめ、市側に提出するという措置がとられました。

５月臨時会に先立ち、市側はおもいやりマスク着用条例の新設、市長ら特別職の給与を減額する条例改正、休業要請に応じた事業者に対する県の交付金に市独自で上乗せするための補正予算など７件を、議会に諮らずに専決処分しました。異例ですが、いずれも５月臨時会で事後承認されました。

三密回避で本会議出席者を減らした５月臨時会

住民サービスを低下させないための急を要する専決処分はやむを得ませんが、乱発すれば議会の存在意義が失われます。なので、専決処分の適否は慎重に精査するよう要望しました。

マスク着用条例　質疑の要旨

5月臨時会において、「大和市おもいやりマスク着用条例」に対する本会議質疑を行いました。私の質疑の要旨をお知らせします。

Q　専決処分の適用に対する市のスタンスは？

A　本市の専決処分は地方自治法の規定に基づき、普通地方公共団体の長において議会の議決すべき事件について、特に緊急を要するため、議会を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認めるときに行っている。

Q　条例には咳エチケットや手洗いの言及がない。マスク着用に限定した理由は何か？

A　新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の予防には、マスクの着用だけでは不十分であり、咳エチケットや手洗いなども重要である。条例では市民の皆様にお願いすることすべてを網羅するのではなく、象徴的なものとしてマスク着用を掲げた。感染症が流行している状況下において、思いやりをもって行動することが感染症の拡大防止につながると考える。

Q　条例における「感染症等」とは何か。パンデミック宣言されるような感染症か。季節性インフルエンザも含むのか？

A　本条例においては感染症等を主に飛沫または接触での感染経路により、ウイルスが鼻、口等から侵入することに起因して罹患する疾病と捉えている。

Q　新型コロナ対策でマスク着用を求める期間はいつまでか。緊急事態宣言の期間中か？

A　感染症等の蔓延が予測されるときや蔓延したときから収束するまでの期間を想定し、その間はマスク着用を呼びかけたい。

Q　条例を機に、マスク非着用者に対する入店規制が出始めているが、市はどう考えるか？

A　マスク着用を強いるのではなく、市民一人一人が思いやりの心をもって着用していただくことが、感染症拡大を防止し、思いやりあふれる社会の実現に資する本条例の目的にかなう。

Q　マスクの供給不足が続く中で、したくても着用できない市民もいる。条例は「マスクをしていない市民は思いやりがない」とも読めるが、「思いやりあふれる社会の実現」とは何か？

A　マスクを着用することで、自身のみならず周囲の人の健康被害を防ぐことにもつながることから、利他の精神で着用することが思いやりそのものであると考えている。いまだ新型ウイルスの収束が見通せないなかにおいては、市民一人一人が思いやりの心をもって着用していただくという、小さな行動の積み重ねが思いやりあふれる社会の実現につながっていく。

Q　条例には「必要な施策推進」とあるが、市はマスクについて今後どのような施策を行っていく考えか？

A　まずは着用の呼びかけと同時に、自家製マスクの作り方について、やまとニュースや広報やまと、ホームページを通じ、さらなる周知を図っていく。また、新型コロナウイルス感染症の拡大が一定程度落ち着いた際には、将来の感染症対策としてマスク100万枚を備蓄していくことも考えている。

新型コロナを恐れる前に

昨年売れた『FACT FULNESS（ファクトフルネス）』（ハンス・ロスリング、日経BP）を読みました。この本は、人間にありがちな10の思い込み（本能）を乗り越え、データをもとに世界を正しく見る習慣を身につけようと啓蒙しています。

コロナショックに当てはまると思われる７項目について要点をまとめます。

（1）世界はどんどん悪くなっていると思い込む「ネガティブ本能」

悪いニュースの方が広まりやすい。良い出来事は報道されないので、ほとんどのニュースは悪い内容になる。だが、「悪い」という現在の状態と「良くなっている」という変化の方向は両立しうる。

（2）グラフは直線的に推移すると思い込む「直線本能」

実際には直線グラフの方が珍しい。グラフには様々な形がある。

（3）危険でないことを恐ろしいと思い込む「恐怖本能」

人は誰しも恐ろしいものに自然と目が行く。「身体的な危害」「拘束」「毒」を恐れ、リスクの過大評価につながる。恐怖と危険は違う。リスクを正しく計算する。

（4）目の前の数字がいちばん重要だと思い込む「過大視本能」

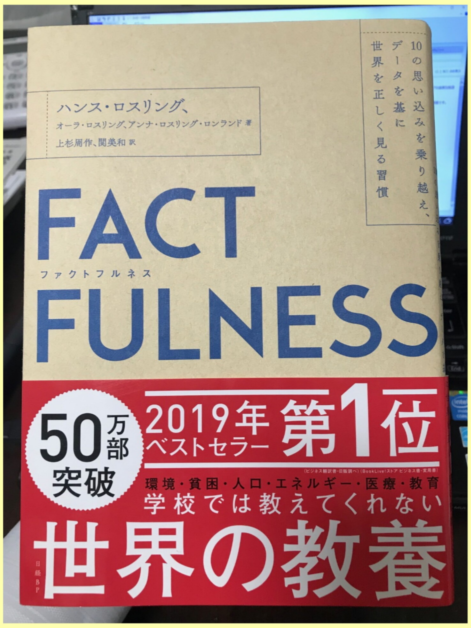
大きな数字はそのままだと大きく見えるが、ほかの数字と比較し、できれば割り算をする。割合の方が数字の意味を理解しやすい。

（5）ひとつの例がすべてに当てはまると思い込む「パターン化本能」

ひとつの集団のパターンを根拠に説明するパターン化は間違いを生み出しやすい。同じ集団の中にある違いや、異なる集団間の共通項を探す。

（6）誰かを責めれば物事は解決すると思い込む「犯人捜し本能」

誰かを責めるとほかの原因に目が向かなくなり将来同じ間違いを防げなくなる。状況を生み出した複数の原因やシステムを理解する。



（7）いますぐに手を打たないと大変なことになると思い込む「焦り本能」

時間をかけ正確で重要なデータだけを取り入れる。予測には幅がある。最高のシナリオや最悪のシナリオだけではない。たいていは地道な一歩に効果がある。

どうでしょう。新型コロナを過剰に不安視することなく、冷静に直視するヒントがちりばめられているのではないでしょうか。

Topics

環境建設委員長に就任

５月臨時会において、環境建設常任委員会の委員長に就任しました。任期は１年間です。

環境建設委は環境対策、緑の普及、農政、ごみ、都市計画、公共下水道、道路、土地区画整理、市営住宅など市の環境・建設部門に関わる問題を取り扱います。

議会だよりの編集を担う広報委員長の経験はありますが、常任委員長は初めてです。気を引き締めて頑張ります。

LINEアカウント開設

LINEの公式アカウントを開設しました。議員本人に気軽にコンタクトすることができます。よろしかったら下記QRコードから登録してみてください。

Line ID　@odahiroshi

◆プロフィール
昭和50年1月5日生まれ／大和市出身／福田在住
高座みどり幼稚園→西鶴間小学校→南林間中学校→中央大学附属高校→上智大学経済学部

産経新聞で新聞記者16年→大和市議会議員（２期目）

◆産経新聞記者（16年間）当時の職歴
東京本社・整理部→千葉総局→社会部→政治部

◆特技・資格
居合道三段、防災士

◆市議としての役職（令和2年5月～）
環境建設常任委員会委員長
基地対策特別委員会委員
相模原二ツ塚線及び水窪座間線建設促進協議会委員

◆その他の主な活動
自民党大和市連合支部政調副会長・広報局長自民党神奈川県連　市町村議員協議会幹事
大和中央シティライオンズクラブ
関東若手市議会議員の会（神奈川県代表）
隊友会
金毘羅神社神輿会

HPはこちらから↓

大和市議　小田博士　〒242-0024 大和市福田5690-1-601　小田博士 検索
〈TEL〉046-206-5567〈FAX〉046-206-4288〈MAIL〉h-oda@nifty.com

このレポートは政務活動費を使用していません。